生徒会活動について

生徒会長　南雲　広斗

塩沢商工高校の生徒会で主に行う年間行事を紹介します。

４月には、対面式・新入生オリエンテーション、激励会等があります。例年、激励会と同時時期に開催される体育祭の軍団抽選会はとても盛り上がります。

５月には、生徒総会や体育祭結団式があります。生徒総会では、今年度予定する様々な生徒会の決めごとの協議や審議が行われ、可決されれば、予定通り行事を開催や運営をしていけることになります。また、体育祭結団式から各団が本格的に体育祭に向けて士気を高めていきます。

６月には、体育祭が行われ、各団が一致団結し優勝を目指して頑張ります。　台風の目、ファイナルリレーなどの競技があり、一年で一番盛り上がる行事です。　他にも、今は、新型コロナウィルスの感染状況が落ち着いていないため実施できていませんが、近隣の子ども園の園児を招待する競技もあり、地域の皆さんと体育祭を作っていけたらと考えています。今年からはマスクの着用が個人の判断となりましたが、感染対策を行いながら、今よりもいろいろなことが行えるように計画していきます。

11 月には、文化祭があります。本校の文化祭は「丘陵祭」と呼んでいます。生徒が中心となり、活発に準備や当日の運営を行っています。丘陵祭では、各クラス、部活、生徒会などによるイベントがあります。新型コロナウィルスの影響がなく通常通り行える年は、音楽部が毎年演奏を披露してくれています。

12 月には生徒会役員選挙があります。次期生徒会役員を決める大事な行事です。それぞれの立候補者が前に立って演説をし、その日に投票をして次期生徒会役員を決めていきます。

同じく、12 月のもう一つの目玉行事は、クラスマッチです。毎年競技は検討され、各クラス対抗で戦っていきます。昨年は、バスケットボール、バレーボールやバレー、ドッジボールの競技を実施しました。クラス対抗で全校生徒が競技に参加するため、毎年、熱い戦いが繰り広げられます。

主な年間行事は、以上となりますが、全校生徒が思い出をつくり、楽しい学校生活を送れるように活動していきたいと思います。

6 月　体育祭

11 月　体育祭

12 月　生徒会役員選挙

12 月　クラスマッチ

卒業生より

部活動で学んだこと

塩沢商工高等学校　ウエイトリフティング部　和田　歩

　私は高校に入学してウエイトリフティング部に入部しました。中学校までは相撲に取り組んでいました。顧問の先生に勧誘されたことがきっかけです。

　ウエイトリフティングは努力を重ねた結果がはっきりと数字にあらわれるので、練習をした分だけ自分に返ってくる楽しさがあります。ウエイトリフティングは個人競技であり、試合になれば一人でバーベルに向かいますが、そこに辿り着くまでの過程には、応援してくれる家族や友人、同じ目標に向かって励まし合いながら練習し、支えてくれる仲間の存在は欠かせません。そんな周囲の支えの中、私はインターハイで８位入賞という目標を達成することができました。

　私は３年間の部活動を通じて、周りの人から支えられることのありがたさや継続することの大切さ、また同時に自分自身も仲間の役に立っていることの大切さを学びました。これらは部活に限らず日常生活でも大切なことだと思います。これから先、社会人になっても応援してくれる人や仲間のために頑張れる自分でいたいと思っています。みなさんも部活動に参加し、勉強とは別の大切なものを部活動を通じて感じてください。きっと充実した有意義な高校生活になると思います。

伝統文化に触れて感じたこと

塩沢商工高等学校　家庭部　部長　吉田　麗奈

　私たち家庭部では、伝統文化に触れるために地元の機織り体験をしました。おととしの５月頃から「塩沢つむぎ記念館」から依頼を受けて塩沢４大織物（塩沢紬・本塩沢・夏塩沢・越後上布）を使った鯉のぼりを製作することになりました。塩沢の織物は、ユネスコ無形文化遺産に登録されているものもあり、一つ一つの生地がとても高価で布地を裁断するのもすごく緊張しました。また、デザインに工夫を凝らすために部員全員でアイデアを出し合い目や鱗（うろこ）の色を統一して家族のつながりを表現しました。手縫いで仕上げ、昨年の３月上旬にやっと完成させることができました。

　私は鯉のぼり製作を始める前は活動日が少なく辞めようと思っていました。しかし、鯉のぼり製作をしているうちに、充実して楽しかった中学校での部活動を思い出し、またみんなで一つ目標に向かう喜びを感じたいと思って続けています。高校の部活動でみんなと一緒に一生懸命作業をやっている時間は授業とはまた違ってとても楽しい時間です。

　これからも、家庭部での活動を多くの方に知ってもらえるように部員全員で頑張っていきたいと思っています。

機械システム科の実習で学んだこと

塩沢商工高等学校　機械システム科　　石田　遥人

私は２年生になり、建設系の実習を初めて学びました。初めて体験することもたくさんありとても不安でしたが、地域建設業の方々が毎時間講師として来ていただき、優しく、丁寧に指導してもらい、安心して実習に取り組めました。２年生からの土木選択の実習では実際に建設重機を操作・運転することができました。私はバックホウの運転にとても興味をもっていました。それは小さいときに祖父がバックホウの運転している姿をよく見ていたからです。バックホウのアームを自身の腕のように操作する祖父の姿を見て、運転は簡単だと思っていましたが、実際に運転をしてみると、とても難しく、祖父や現場の方々、実習内で運転していた講師の方々をとても尊敬しました。私は将来、建設系の職に進みたいと考えています。そのため今後も重機の資格取得や建設系の実習をとおして、技術や知識を高めていきたいと考えています。機械システム科の実習では、地域の技術者の方々から教科書では知ることのできないことや、現場経験の体験談などを教えてもらう機会もたくさんあるので、安心して工業について学ぶことができます。

地域活性化・地域貢献活動を通じて

塩沢商工高等学校　商業科　　南雲　愛夢

塩沢商工高校の商業科では、明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業の一環で、地域活性化や地域貢献活動を行っています。毎年９月に南魚沼市で開催される「南魚沼グルメライド」では食品提供のボランティアスタッフ、１０月・１１月に塩沢駅前のつむぎ通りで行われている「軽トラ市」と２月に「南魚沼市雪まつり」で販売実習、「しおざわ雪譜まつり」塩沢紬の着物ショーモデルを行っています。特に販売実習では、「商品開発」の授業で、自分たちで考案した商品を地元地域のお菓子屋さんで作っていただき、各イベント会場で販売しています。販売実習では学ぶことが多く、私はチームワークの大切さを一番学びました。みんなで大きな声を出して呼び込みをし、接客・会計・在庫管理、販売促進など、みんなで協力して全ての商品を売り切ることができました。

また、食品提供スタッフや着物ショーのモデルでは、「塩沢商工の生徒が協力してくれて本当に良かった」という言葉をいただき、地域の方々との関わりの大切を感じることができました。これも、塩沢商工でなければ得ることのできないものだと感じています。塩沢商工に入学して良かったと思っています。